

— 芝浦工業大学 —

2月2日 前期日程 英語

解答・解説

I

1. a 2. c 3. b 4. b 5. a

1. 「私は行けないと思う」
2. 「他には何をもらったの?」
3. 「はい、私はハワイに行くつもりです」 否定疑問文の答え方がポイント。
4. 「あなたはメッセージを残したいですか?」
5. 「なぜ?」 How come? Bの「災難だったよ」に対して、その理由を尋ねる表現は入る。

II

1. curious 2. growth 3. extinct 4. concentrate

1. 形容詞「好奇心が強い」 2. 名詞「成長、発展」 3. 形容詞「絶滅した」 4. 動詞「集中する」

III

1. a 2. c 3. c

1. A～Fまでのうち2人が子どもで、それぞれ男の子と女の子とある。最後の文から、そのうち一人がFであり「男」であることが判明。人物に関する説明において、F以外子どもである人は誰もいないため、CがF以外のもう一人の子どもでありかつ「女」であることが分かる。
2. Aは前から「14」番目。Bは後ろから「7」番目。AとBの間に「5」人いる。 $14+7+5=26$
3. 年齢順に並べると… $C>4$ 歳差 $A>4$ 歳差 B 。 $4+4=8$

IV

1. c 2. d 3. b 4. b 5. b 6. b 7. d 8. d 9. c 10. a

1. insurance 「保険」
2. ratio 「比率、割合」
3. shortage 「不足」
4. ripe 「機が熟した、準備の整った」
5. doubtful 「疑わしい」
6. hostile 「〔考え・計画などに〕強く反対で」
7. strive for～ 「～を目指して奮する」
8. respectively 「それぞれ」
9. restrict O to～ 「O を～に制限する、限定する」本問の文は、受動態になっている。
10. interrupt 「O を一時中断する」こちらも受動態。

V

1. c 2. c 3. a 4. c 5. c 6. c 7. a 8. a 9. b 10. a

1. 仮定法過去完了の文。
2. relaxed 形容詞で「〈人が〉落ち着いた、くつろいだ」そもそも他動詞 relax が「O をくつろがせる」
3. by 「～までに」※「期限」を表す
4. 空欄後が完全文。空欄前の名詞 the store を先行詞とし関係副詞を入れる。
5. What で始まる疑問文。different ways の有無を尋ねている通常の疑問文なら any になりそうだが、そもそも存在していて、それは何か？という内容だから。「different ways は存在している」という前提に立っているので some を用いる。
6. if 以下 know の目的語となる名詞節。「明日雨が降るかどうか」副詞節ではないので注意。
7. than anything else 「他のどんなものよりも」
8. cannot be too careful 「注意して、しすぎることはない」
9. 空欄前の a feeling と同格関係を成す節を導く、接続詞の that が入る。
10. cannot but V 原形 「V せざるをえない」

VI

1. A b B d 2. A e B a 3. A f B d 4. A f B g 5. A c B g

1. We had hardly walked into the building when the lightning hit a nearby tree.
2. Can you see the woman standing over there with her arms folded?
3. How do you think early humans survived the Ice Age?
4. カンマ以下, it is important to know to manage our personal information and activities online.
5. There is no doubt that cash will be replaced by digital money sometime in the future.

VII

1. d 2. c

1. A・B・Dのいずれで始まるか?を決める。Aには The new system…とあり、Dには At the same time…とあり、[]内の始まりには不適切。B→Dと来て、Cの a domestic system をAの the new system と受けていることを認識できれば、その後A→Dと続くと判断できる。
2. B・C・Dのいずれで始まるか?を決める。Bの Most of them…、Dの They は何かそれに対応する名詞が、前で言及されているはずだがそれらは見当たらない。ということでC始まり。Aの後にDが続く流れを見出し答えはc。

VIII

1. ア b イ d ウ b エ a オ d
2. 私たちの出すごみは、形や大きさそして色も様々であって、同様に多様である動物たちの興味を引き付けてしまうのだ。そしてこれが問題なのだ。
3. (A) d (B) a (C) b (D) a (E) c (F) d (G) b
4. a e f i

1. ア in search of 「〈人・物〉を捜して」
 イ with 以下、付帯状況。
 ウ 空欄前の scooping を意識。scoop O into～ 「O を救い上げて～に入れる」
 エ 空欄前の coming 意識。coming 以下分詞の形容詞的用法で、さらに前の名詞句 the chemical cue を修飾。come from 「〈態度・現象が〉…から来ている」
 オ jump to conclusions 「結論を急ぐ、早合点する」
3. (A) 「慰め」選択肢の中で近いのは、satisfaction 「満足、喜び」
 (B) 「動き回る多くの物もの」→「海を」動き回る多くの「海洋動物」と考える。
 (C) 「(人・行動が)神経質な」discriminating 「識別力のある、目の肥えた」
 (D) 「従来の」ordinary 「ふつうの、いつもの」
 (E) 「片寄った、偏見を持った」prejudiced 「偏見を持った」
3. カンマの前の and が文と文を並列。最初の文が so～that…構文になっている。
4. a → 第1段の内容より。
 e → 第8段の内容より。
 f → 第12段下線部(1)の直前の文より。
 i → 第11段終わりの2文より。

総評

I 会話文読解

平易とまでは言えないレベル。すぐには正解が出なそう。

II 派生語を書かせる問題

正確に綴れるかということになると、少々難しいところもあるかもしれないが、少なくともどの品詞にすればよいかは判別したい。

III 質問(算数の文章題)

頭の中だけで考えていると間違えてしまいそうだが、図示するなど工夫があれば全問正解できるレベル。

IV 短文空欄補充 選択問題(語彙)

昨日の同大学の大学Ⅲに対応する問題。それに比べれば比較的易しい。1、2問の誤答程度で切り抜きたい。

V 短文空欄補充 選択問題(文法)

昨日の同大学の大学Ⅳに対応する問題。こちらは昨日と同レベルか。

VI 整序英作文

例年と同じくらいのレベル。昨日の問題に比べるとかなりやりやすい。

VII 文整序問題

標準的。昨日の同タイプの問題に比べるとやや難か。

VIII 長文総合問題

例年と同じくらいのレベル。和訳も取り組みやすい。

～全体を通して～

例年の芝浦工業大学のレベル・ボリュームの問題でした。昨日の問題から考えると、かなり取り組みやすくなったという印象はありますが・・・